※令和３年度以前入学生用

学校番号	T3010D

令和５年度　クラフト科

教科	工業	科目	クラフト実習	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	プリント等						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本の伝統的工芸技術である金属工芸の鍛金およびガラス工芸の知識と技術を習得し、これまでに学んだ基礎技術を活かしながら造形的な創造活動の基礎的・基本的な知識を培う。
使用する材料についての理解や的確な加工技術と表現力の習熟や直感力と立体感覚を身につけ、計画的および発展的なアイデアを開発していく力を育成する。

２　学習の到達目標

鍛金およびガラス工芸に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに立体造形の構成で材料は適正か、十分な強度を有するか、安全性が確保されているか、印象は適正か、機能が損なわれていないかなど総合的に判断できる能力、実際に活用できる美的感覚と表現能力を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	金属造形やガラス加工に興味を持ち、産業と社会とのかかわりについて意欲的に取り組み、実践的で真剣な態度を身につけている。	金属造形やガラス加工に関する諸問題の適切な課題解決をめざし、基礎的な知識と技術を活用して判断し、その結果を的確に表現する能力を身につけている。	金属造形やガラス加工に関する基礎的な技術を身につけ、技術者としての責任ある取り組み、また実際の課題を適切に処理する技能を身につけている。	金属造形やガラス加工に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、現代社会における工芸の役割を理解している。
評価方法	・学習活動に積極的に参加しているか ・安全作業に適した服装をしているか ・互いに協力しながら作業を行っているか	・内容を理解して実習を行っているか ・工具や測定器具を適切に判断し、使用しているか ・工具等を適切に使用し、制作物の加工ができているか ・事故防止のための規則・ルールを守りながら実習を行っているか	・金属加工や接合、施釉・焼成を正しく行えたか ・ガラス加工・接合を正しく行えたか ・報告書を作成できたか ・制作物(課題)を完成させたか	・報告書を(レポート)を作成することにより、七宝・陶芸技術に関する内容を理解できたか

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期・2学期初旬	金属工芸（鍛金）	金属材料とその特性について 鍛金の知識と工具の取り扱い 金属の加工について 銅鍋のデザイン 鍛金についての考察	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○	a:金属の種類、鍛金技術の歴史、鍛金加工加工技術について理解できているか b:材料の特性により最適な工具・工法を選定し、加工できているか c:制作物のデザインを把握し、デザイン通りに仕上げているか d: 制作物について問題点・改善点を考えることができる	工具等を正しく使用し、怪我無く作業しながら作品を制作しているか 授業態度 出席状況 デザイン 作品完成度
2学期中旬・3学期	ガラス工芸（ステンドグラス）	ラス材料の特性と工具の取り扱い 安全作業に関する知識 平面構成に関する知識と実技 ハンギングステンドグラスの制作 制作物についての考察	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	○ ○ ○ ○ ○	a:ガラス材料の特性と工具の取り扱いについて理解できているか b:材料の特性により最適な工具を選定し、かこうできているか c:作品の寸法を把握し、デザイン通りの作品に仕上がっているか d: 制作物について、問題点・改善点を考えることができる	工具等を正しく使用し、怪我無く作業しながら作品を制作しているか 授業態度 出席状況 デザイン 作品完成度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。